

大学生の就職にまつわる危機意識と キャリア・アダプタビリティとの関連

船 木 のぞみ

若年層の就労問題は多岐に渡って考察されてきたが、「若年雇用問題」というマイナス面に焦点があてられることが多い。これらの問題については、当事者である若年者のみならず、社会、経済、教育など幅広い領域の問題として扱われ、論じられている。本研究では、キャリアおよびキャリア発達を軸に、Savickas がキャリア構築理論の中核概念としたキャリア・アダプタビリティを中心に先行研究を概観した。

本研究は、大学生を対象に、現時点で持っているキャリア・アダプタビリティが将来起こりえる職業ストレスをどのように捉えるかを検討することを目的とした。研究Ⅰでは、職業ストレスを職業ストレスが起こるかもしれないという予測可能性と、職業ストレスが起きた時に対処できるかという対処可能性の2方面から測定し、尺度を作成した。同時に、キャリア・アダプタビリティの尺度を作成し、職業ストレスの2尺度との関連を検討した。研究Ⅱでは、研究Ⅰで作成した職業ストレス2尺度と、キャリア・アダプタビリティ尺度を再検討し、加えて、特性的自己効力感尺度を測定し、職業ストレスに対処する自己効力感の認知や、キャリア・アダプタビリティに関連した人格特性傾向を表すものとして検討の指標とした。

研究Ⅰでは、97名の大学生・大学院生を対象に質問紙調査を実施し、作成した職業ストレス2尺度とキャリア・アダプタビリティ尺度の信頼性と妥当性を検討した。職業ストレス尺度は予測可能性尺度の構造を検討したところ、5因子構造を妥当とした。次いでキャリア・アダプタビリティ尺度の構造を検討したところ、4因子構造を妥当とした。ここでは、職業ストレス対処可能性尺度得点の高さがキャリア・アダプタビリティ尺度得点の高さに影響があることが示された。

研究Ⅱでは、137名の大学生・大学院生を対象に研究Ⅰで作成した職業ストレス2尺度、キャリア・アダプタビリティ尺度を再構成・検討し、3尺度間の関連を検討した。さらに特性的自己効力感尺度との関連を検討した。各尺度の信頼性はほぼ満足できるものだった。職業ストレス予測可能性尺度と職業ストレス対処可能性尺度、キャリア・アダプタビリティ尺度、特性的自己効力感尺度は負の相関を示し、職業ストレス対処可能性尺度とキャリア・アダプタビリティ尺度、特性的自己効力感尺度は正の相関を示し、キャリア・アダプタビリティ尺度と特性的自己効力感尺度は正の相関を示した。

全体を通して、キャリア・アダプタビリティが職業ストレスへの対応に影響しているといえ、キャリア・アダプタビリティが高ければ、職業ストレスが自分に起こりにくく、起きてても対処できると考えていることが示された。キャリア・アダプタビリティがエンプロイアビリティを促進する一つであることから、ストレス耐性、かつストレス状況を作らない能力という観点でも、高めることが重要である。